

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900074		
法人名	株式会社 いわい		
事業所名	グループホームにこにこひがしやま【やまゆり】		
所在地	岩手県一関市東山町長坂字北磐井里187番地3		
自己評価作成日	平成23年7月11日	評価結果市町村受理日	平成23年10月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390900074&SCD=320
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19番1号
訪問調査日	平成23年8月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○一人ひとりの生活歴、残存機能を把握すると共に、その方の思いや願い、暮らし方の意向を把握しその人らしく生活できるよう支援している。</p> <p>○小学生の下校見守り隊、老人クラブの定例会参加等、地域とのつながりを大切にしている。</p>

<p>訪問時、利用者は、ホールで職員と会話を交わしていたり、テレビを見ている人、一人でソファに座って休んでいる人など思い思いにのんびりと過ごされていた。挨拶も笑顔で交わり、爽やかであった。 近くの公民館で、毎月開かれる老人クラブの定例会に参加し、利用者も一緒になり血圧測定や話合いに参加している。また、地域で行っている学童の見守り隊にクラブの一員として加わっている。昔から行われていた馴染みの行事や、地域の人たちの応援を頂きながら味噌作りと梅干作りに取り組んでいる。香りがよく、味の良い美味しい味噌が出来ている。梅干は、手順にそって利用者で漬けこみ、少々課題の残る出来栄であったが、利用者が皆で作る貴重な体験が行われている。事業所では、利用者の支援の充実を目標に、認知症の専門の職員養成を目指して内部研修に取り組んでいる。3月に発生した大震災を受けて、その対応に向けた支援についても検討が続けられている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、スタッフルームに掲示すると共に、毎日の申し送り時理念を唱和することにより再確認し実践につなげている。	「家庭的な環境と地域環境の下で笑顔で明るく安心した生活が送れ、残された機能の充実を目指した支援に努める」を理念に掲げ取り組んでいる。全職員で話し合っただけのもので玄関やスタッフルームに掲示し日々の実践につなげる努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学生の下校見守り隊や、老人クラブ定例会参加、老人クラブの方と一緒に施設周辺の草刈りを行なう等日常的に交流している。	職員構成で「地域の委員会」があり、企画、情報の収集等に当たり、地域の一員として積極的に交流に努めている。学童の下校時の「見守り隊」も順番制で利用者と一緒に出かけたり、町民農園では野菜作りを教えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人クラブ定例会で認知症サポーターの養成講座を開催し、認知症の人の理解、支え合っている環境であるよう理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催され、GHの取り組み状況の報告が行なわれている。地域住民、家族会代表、市職員、利用者が参加し活発に意見が出されている。その意見をミーティングで全職員に展開しサービスの向上や運営に役立てている。	2ヶ月に一度、奇数月に市保健福祉課職員、行政区長、町ボランティア連絡協議会会長、家族会代表、利用者で推進会議を開いている。家族アンケートの内容について説明し、意見を聞いている。大震災時の対応やお祭りへの参加について状況を説明し、委員から出された意見を支援に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂くことで活動内容を把握して頂いている。日常的に連絡を取り合いながら連携を図っており、協力関係は構築されている。	広域行政組合の介護保健課や福祉事務所の職員が主な窓口となってホームの実情を伝えながらショートステイや利用開始時の主治医の意見書、往診時の対応などについての相談、また、日常のケアサービスについて相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を実施している。全職員が正しく理解し実践している。	職員が講師を努めながら内部研修に取り組んでいる。独自のマニュアル「禁句といわれる言葉」を作成し、職員が共有を図りながら拘束をしないケアに努めている。外部研修は今後出席予定としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を実施している。職員同士で確認、注意合いながら虐待防止に努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームにこにこひがしやま(やまゆり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部・外部研修参加にて職員は内容を理解している。利用者様の状況に応じ関係機関と連携をとりながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行なうと共に疑問点や、不安な点はないかを尋ね対応している。理解、納得を得た上で契約、解約、改定を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催、アンケートの結果を推進会議で検討し家族にも報告している。又、日常的に話しやすい環境づくりに努めており、家族の来所時や行事の際に意見を聞く機会がある。	お花見、敬老会、クリスマス会と併せて年3回の家族会や年1回のアンケートを実施している。家族から聞いたことで皆にお知らせした方がよい内容については、広報「にこにこ便り」に記載し、ご家族や地域の人達に紹介している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや個人面談などから常に職員の意見が反映できている。又、日常のコミュニケーションの中でも意見を聞く機会がある。	毎月開く職員会議や管理者との面談が3回行われ意見を話せる環境づくりをしている。業務の見直しや利用者の機能低下による介助について提案されたこと等がサービスの向上に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるような職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修等職員のレベルに合った研修を年間計画に基づいて進めており、資格取得にも積極的に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のGH協会に加入し、定例会研修会に管理者が出席し、そこで得たものを職員に展開し質の向上に役立てている。年一回程度、県南ブロック内で交換研修を行い交流を深めている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用する前に必ず本人と面談を行い、ゆっくりと話をすることで、信頼関係を構築できるようにしている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前の面談の際、家族とも十分な話し合いを持つことで、信頼関係を構築できるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員、本人、家族、関係機関と話し合い連携をとりながら、今必要なサービスを見極めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑作業、食事作り、季節の行事を一緒に行い、時には教えて頂きよりよい関係が保てるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意向を確認しケアプランに反映させることで、共に本人を支えていく関係を築いている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふるさと訪問の実施や常に面会が出来る環境づくりを行なっている。	美容院への継続支援やご家族との茶会や馴染みの牧場を見に行ったり、世話になった神主を訪問したり、奥さんが入所している施設を訪問したり、またホームを訪問してもらう機会を作ったりして馴染みの人達との関係が続くような支援に努めている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフの仲介で孤立することなく過ごせている。又、利用者同士が支えあう姿も日常生活において多々みられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退居になった場合でも退院後困ることがないように相談や支援に努めている。又、その後であっても相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に希望を聞き意向の把握に努めている。意向はケアプランに反映されており、意向に添えられるよう取組んでいる。	本人の希望を基本情報シートに書き留め、スタッフ全員が共有できるようにし、利用者の意向に添える支援に努めている。日常の会話を大事にししながら、花壇の整備や苗の植え付け、買い物などについて本人の意向に添えるよう取組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを活用し把握に努めている。又、日常の会話からも引き出せるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェック、会話、表情等から心身の状態の把握に努めている。個々の力量、行動パターンについては全職員が把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを実施している。状況に応じ臨時で実施することにより現状に即したケアプランとなっている。又、本人、家族の意向を確認しプランに反映させている。	介護プランは、本人、ご家族の状況や要望を聞きながらカンファレンスを行い作成している。見直しについては、毎月検討し、変化があればその都度作成し、3ヶ月目には評価を行いそれに基づいてプランの見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録し朝・夕の申し送りで情報を共有している。個別記録を元にケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	成年後見制度を活用している。併設のデイサービスの行事に参加することもある。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームにこにこひがしやま(やまゆり)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加、小学生の下校見守り隊に参加し地域の中で力を発揮できるよう支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向で今までのかかりつけ医に診てもらっている。主治医とは状況を手紙でやりとりしている。	利用者はそれぞれかかりつけ医をもっており、診察を受けている。緊急時を除いては、家族対応が原則になっている。かかりつけ医とは手紙や電話を利用して緊密に連絡を取り合い、家族にも伝えながら適切に医療を受けられるような支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護記録を活用し、日々の様子や受診結果を報告し、看護師から注意点等の指示を受けている。緊急時にも報告・相談できる体制が出来ている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	病院関係者との情報交換を行い早期に退院できるよう努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルケアの指針については説明し同意を得ている。必要になった時には再度話し合いをもち進めることとしている。	看取り指針も出来ており、過去に例もある。利用開始時には、利用者、家族にはホームで出来ること、出来ないことを段階を踏みながら、主治医と相談しながら支援していく事を説明している。今後も適切でより良いケアが出来るよう勉強会、研修会を実施する予定である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルは装備されており全職員が把握している。定期的にAED・応急手当の講習を受講し実践力を身につけている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に様々な状況を想定して訓練を実施している。昨年度より地域住民の防災協力隊を結成地域の協力が得られるよう取り組んでいる。	ホーム独自では毎月避難訓練を実施している。総合訓練は、消防署の指導と地域防災協力隊の参加の下に年2回実施している。協力隊は11名で組織され、積極的な支援を頂いている。連絡網や役割分担もよくなされ、マニュアルも整備されている。	スプリンクラーも整備され、地域の協力を受ける体制も作られ、意欲的に訓練に取り組んでいる。夜間を想定した訓練も行われているが万全を期するために夜間の訓練をされることを望みたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修で知識を習得し、人格の尊重、プライバシーの保護に努めている。	排泄等に失敗した時の対応の仕方や、プライバシーを損ねない言葉掛けに真剣に取り組んでいる。禁句を中心にしたマニュアルを独自に作成し、一人ひとりの尊重とプライバシーの確保に職員一丸となって取り組んでいる。特に入浴や排泄の介助には気配りに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう、声掛けや対応の工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事はある程度決められた時間になるが、他は一人ひとりのペースを大切に、希望に添った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の選択、なじみの美容院に行けるような支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けを一緒に行なうことで充実感に繋がっている。個々の能力に応じた形態で提供することにより負担感を軽減している。	食事づくりから後片付けまで、利用者が個々の能力に応じて参加出来ることを目指して取り組んでいる。食べる時は、利用者と全職員と一緒にテーブルを囲み、会話を交わしながら、楽しく食べている。地域の人達と一緒に作った野菜も話題に取り上げながら食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は都度チェック表に記録し一目で分かるようになってきている。摂取量が不足している場合は捕食を行ったり、申し送りを行い支援が途切れないようにしている。又、個々の能力に応じた形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは毎食後行なわれている。状況を見ながら磨き直し等の介助もしており清潔保持に努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームにこにこひがしやま(やまゆり)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンの把握をしている。利用者全員がトイレでの排泄が継続できるよう支援している。	排泄チェック表をみんなで共有し、さりげなく誘いを掛けトイレでの排泄が出来るように努めている。ケアプランに排泄介助の仕方を個々に応じて記述し、自立に向けた支援に取り組んでいる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に原因、影響について職員は理解している。運動の働きかけ、起床時の冷水、朝食後のトイレ誘導、食事の工夫等一人ひとりに合わせ対応している。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間、対応する職員の性別等の希望をとり、希望に合わせた支援をしている。	利用者の希望に沿って好む時間に入浴できるように努めている。浴槽はユニットごとにあり、同性介助で楽しませている。入浴を拒否するような場合は、清拭や足浴に変えてみたり、入浴剤を入れたり、介助者を変えたりしするなどの工夫で対応している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	常に自由に休めるようにしている。室内の環境整備にも取り組んでいる。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の目的、副作用、用法等を理解している。日々の症状の変化の把握にも努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の生活歴を活かした活動や楽しみとしていることをケアプランに反映させ意欲向上に繋がるよう支援している。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の意向を確認し、買物や外食、散歩等の支援を行なっている。帰省や墓参りの時などは家族の協力を頂きながら支援している。	利用者の希望に沿えるように家族の協力を受けながら理美容院に連れて行ったり、ふるさとめぐりや買い物に出かけている。散歩を兼ねて野菜畑に出かける利用者もいる。夏祭りには、地域の協力を得ながらみんなでドライブをしながら出かけている。

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームにこにこひがしやま(やまゆり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事務所で行なっているが、希望により買物の代行を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や能力に応じ支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳の小上がりや、ソファ、長椅子を所々に配置し、くつろげる空間作りをしている。	ホールには、テーブルやいす、ソファ、テレビが置かれ、時計、暦、作品、写真などが飾られ家庭的な雰囲気作りに工夫がなされている。黒板が用意され、利用者が月日を記入したり、カレンダーの日めくりをしている。利用者の習字が掲示されていた。洗面台には歯ブラシが置かれ歯磨きができるようになっている。廊下には畳が置かれ、休む場所として利用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家具の配置を工夫をし空間づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ってきて頂くよう働きかけを行なっている。又、馴染みの人の写真を飾ったりして居心地の良い空間作りを心がけている。	居室に、愛用されていた筆筒や三味線、茶道具を持ち込まれている方もいる。位牌をお持ちになり置かれている人、写真や暦といったものを飾り、家庭と同じ気分で過ごされるようにするなど、それぞれ工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の名札、各名称の表記を行いわかりやすく支援している。		